

映画

「人生、いろどり」

あらすじ ～ストーリー～

徳島県の山間部にある上勝町は人口の約半分が高齢者で、さらには過疎化の一途をたどっていた。そんなある日、一人の農協職員が山で採れる葉っぱを料理の「つまもの」として販売することを発案。周囲は冷ややかな目を注ぐが、幼なじみの女性3人が葉っぱビジネスに参加することになり、やがて年商2億円以上を稼ぎ出し、人口増加にまでつながった。そんな驚きの実話を基に、葉っぱビジネスを通じて、再び生きがいを見つけていく70、80代の姿を描いた心温まる感動作。

「人生 いろどり」を観て

広報副委員長 友成ゆかり（友成開発）

この映画を観させていただき、本当に良かったと思います。

私自身、かつて嫁は男性に従えばいいんだという生活から飛び出した経験がありますが、この映画の主人公もまた妻は夫に従っていたらいいという、男性社会、生活の中から葉っぱを通じて生きがいを見つけ、自立していった同じ女性たち・・・。

笑われ、馬鹿にされ、ご主人の妻に対する嫉妬、

ジェラシーのなか、やり続けたからこそ今の「いろどり」があるのだと思いました。

景気が悪いとか何か理由をつけて今の生活に甘んじている自分を省みることができました。私でも出来る、相手に喜びを与えられる人となり、与えられた残りの命、人生を輝きあるものにしていきたいと思います。



(C) 2012『人生、いろどり』製作委員会

